

## 2. 公共交通システムの充実

# 平成17年度の施策の方向性

## ■課題

- JR八王子駅周辺に集中しているバス路線の分散化
- 駅までのバスでの移動の所要時間の短縮
- 交通空白地帯の解消
- 市街地の進展に伴う交通需要に対するバス路線等の充実

## ■施策の方向性

- 地域間及び地域内の快適な移動の支援  
(既存の鉄道や路線バスなどの公共交通サービスの強化・充実)
- 北西部などのバスの定時性や速達性、快適性などの向上
- 中心市街地と多摩ニュータウン間の交通連携の強化

「新八王子市総合都市交通体系整備計画」より

# 平成17年度の施策方針

## ■ 既存鉄道サービスの充実

- ・JR八高線の複線化促進
- ・JR横浜線と八高線の相互乗り入れ促進
- ・JR中央線の輸送力強化及び安全性の向上

## ■ 軌道系交通システムの導入

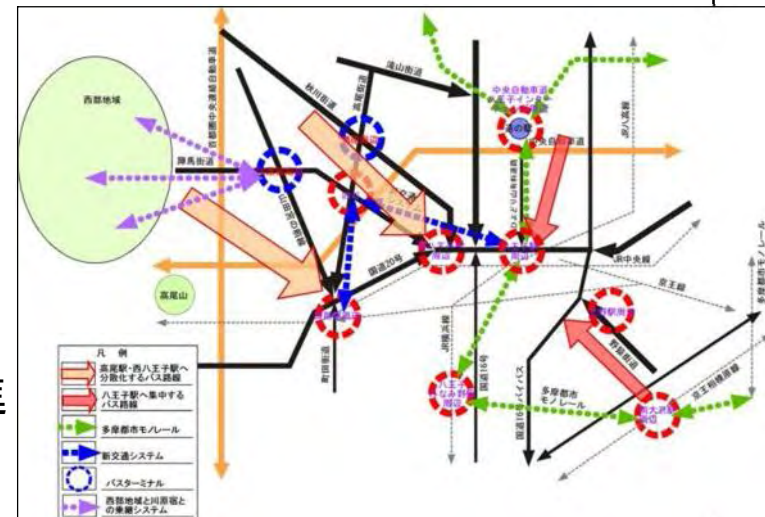
- ・新交通システムの導入検討
- ・多摩都市モノレール八王子ルートへの整備促進

## ■ 利用しやすいバスネットワークの形成

- ・高尾駅などの駅前広場、街路の整備推進によるJR八王子駅周辺に集中しているバス路線網の分散促進
- ・交通不便地域における道路整備にあわせた路線の新設・再編促進
- ・少需要対応型の輸送システムの導入検討

## ■ バスサービスの向上

- ・バス優先・専用レーン、バス優先信号の設置
- ・交差点の改良
- ・鉄道駅及び周辺部におけるバリアフリー化の促進
- ・ノンステップバス、低公害バスの導入促進



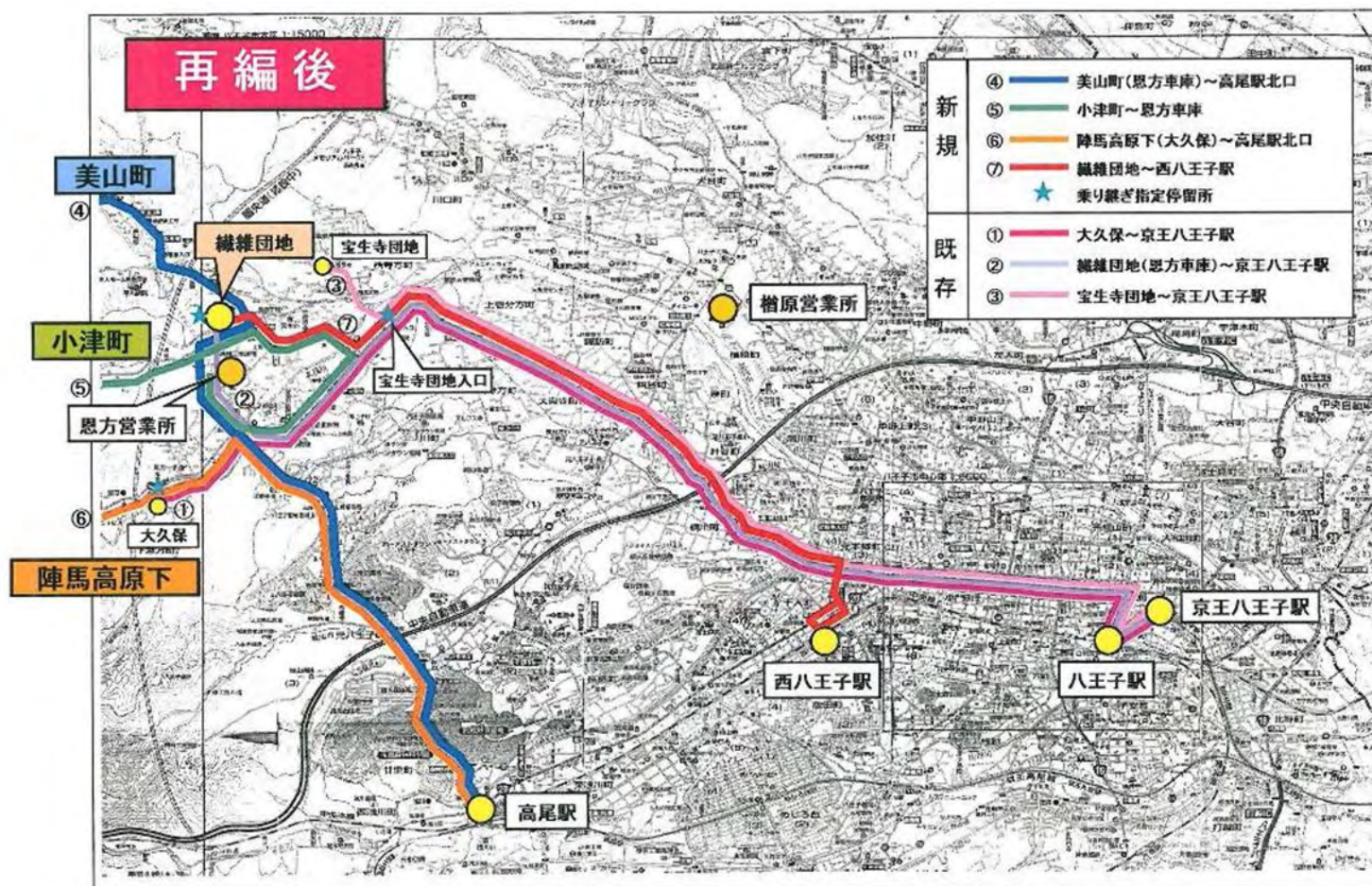
・「八王子市都市計画マスタープラン」、 「新八王子市総合都市交通体系整備計画」より

## ●西部地区路線の再編成

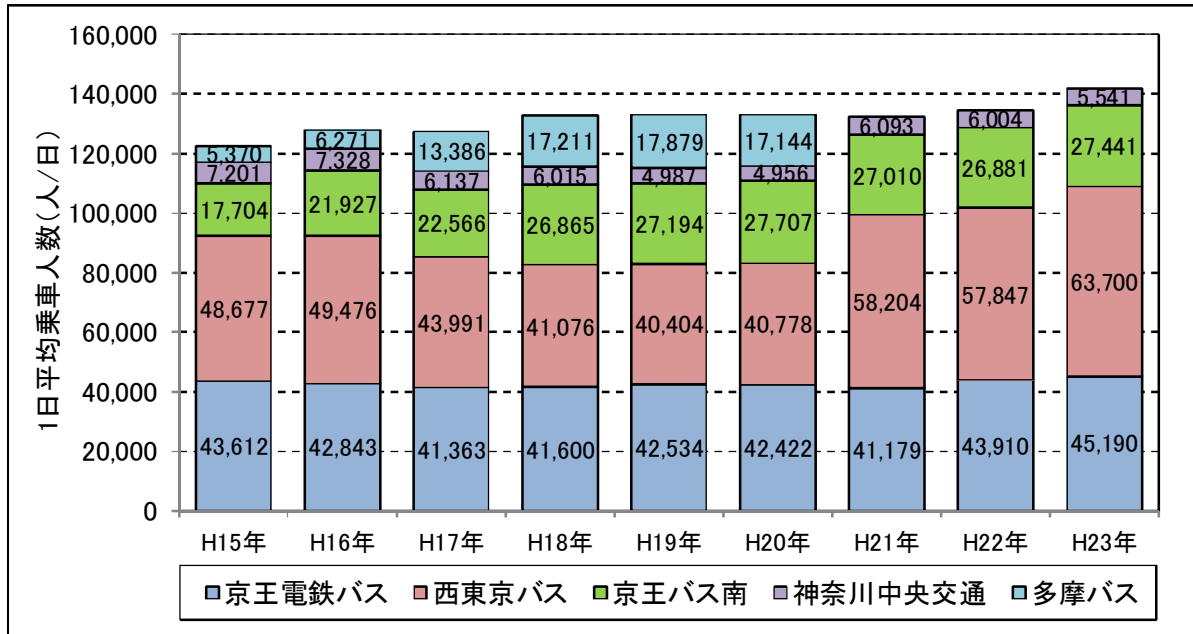
### 八王子駅への一極集中



### 高尾駅・西八王子駅などを起点とするバス路線網の再編成



## ●路線バスの利用者の推移



※多摩バス(株)は平成20年9月1日より  
西東京バス(株)へ再統合された。

### <参考> タクシー(乗用)

- ・市内事業者のタクシー保有台数は約470台。
- ・H21年度の乗客数は534万人超となっている。

## ■ 地域公共交通会議 H19.3-20.6

- ・道路運送法の規定に基づき、地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス等の旅客運送の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議



## ■ 地域公共交通活性化協議会 H20.6-

- ・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(平成19年法律第59号)第6条第1項の規定に基づき、地域公共交通総合連携計画の作成に関する協議及び連携計画の実施に係る連絡調整を行うために地域公共交通会議より移行

### 八王子市地域公共交通総合連携計画 (H21.3)

#### ■ 計画の目標

- ① 階層的で、分かりやすく利便性の高いネットワークを構築を図る
- ② 路線バスのサービス強化による利便性の向上を図る
- ③ 公共交通空白地域を改善し、住民移動の確保を図る
- ④ 自動車から公共交通への転換による渋滞緩和・環境負荷の低減に貢献する



## ●軌道系交通

区分	事業主体	路線名
鉄道	JR東日本	中央(本)線、横浜線、八高線
	京王電鉄	京王線、京王高尾線、京王相模原線
モノレール	多摩都市モノレール	多摩都市モノレール線

## ●バス・タクシー

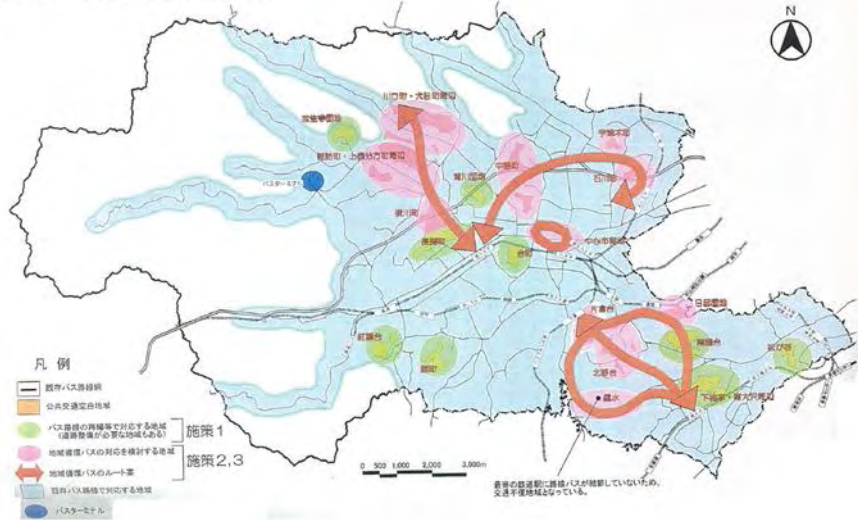
区分	交通手段	コース等	事業主体	特徴
幹線区間	路線バス	—	京王電鉄バス、	・民間バス路線のうち、鉄道駅や拠点を連絡するなど市内バスネットワークの骨格を形成する路線。
支線区間		—	西東京バス、 神奈川 中央交通	・幹線区間を補完し、地域住民の足として運行する路線。 ・支線区間については役割分担も含めて将来的に評価した上で見直す。 ・幹線区間に比べて運行本数が少ない。
	はちバス	北西部コース 東部コース 西南部コース	行政	・道路幅員や傾斜地等の制約条件等から既存バス路線では、運行できない複数のバス交通空白地域を中心にカバーし、運行する路線。
地域交通	貸切バス等	紅葉台	地域 住民	・交通空白地域 ・自治会員の日常生活(通勤・通学・買い物)における移動手段となっている
		小津		・山間地域かつ交通空白地域 ・自家用車のない高齢者や通学児童の移動手段となっている
		醍醐・降宿		
個別交通	タクシー	—	事業者	・個人の多様な要望に対応し、高いサービス水準を維持

## ●【参考】福祉交通・スクールバス

上記交通は、福祉交通施策(福祉有償運送)及び、教育施策として位置付け

# はちバス

図-6-1 バス交通サービスによる地域別対応策



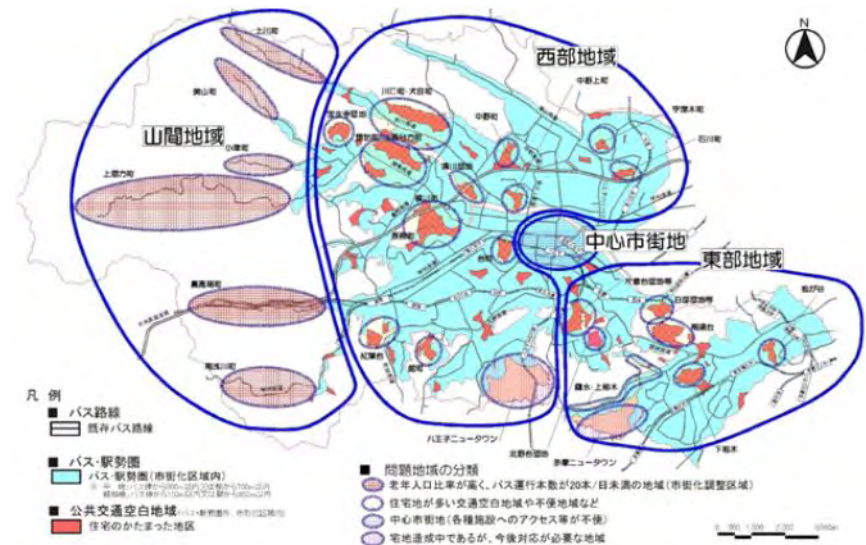
## ※はちバスの運行目的(検討段階)

- ・道路事情や経営的側面などから、既存路線バスでは運行できないバス交通空白地帯を中心にカバー
- ・高齢者、障害者等の外出を支援するとともに、一般市民も利用者可能な交通手段

## ※地域交通事業(交通空白地域交通事業)

- ・バス・タクシー等で交通空白地域と近隣の鉄道駅又は路線バスの乗継拠点等を結ぶ交通機関を運営する事業

# 交通空白地域交通事業





# 主な成果

# はちバス

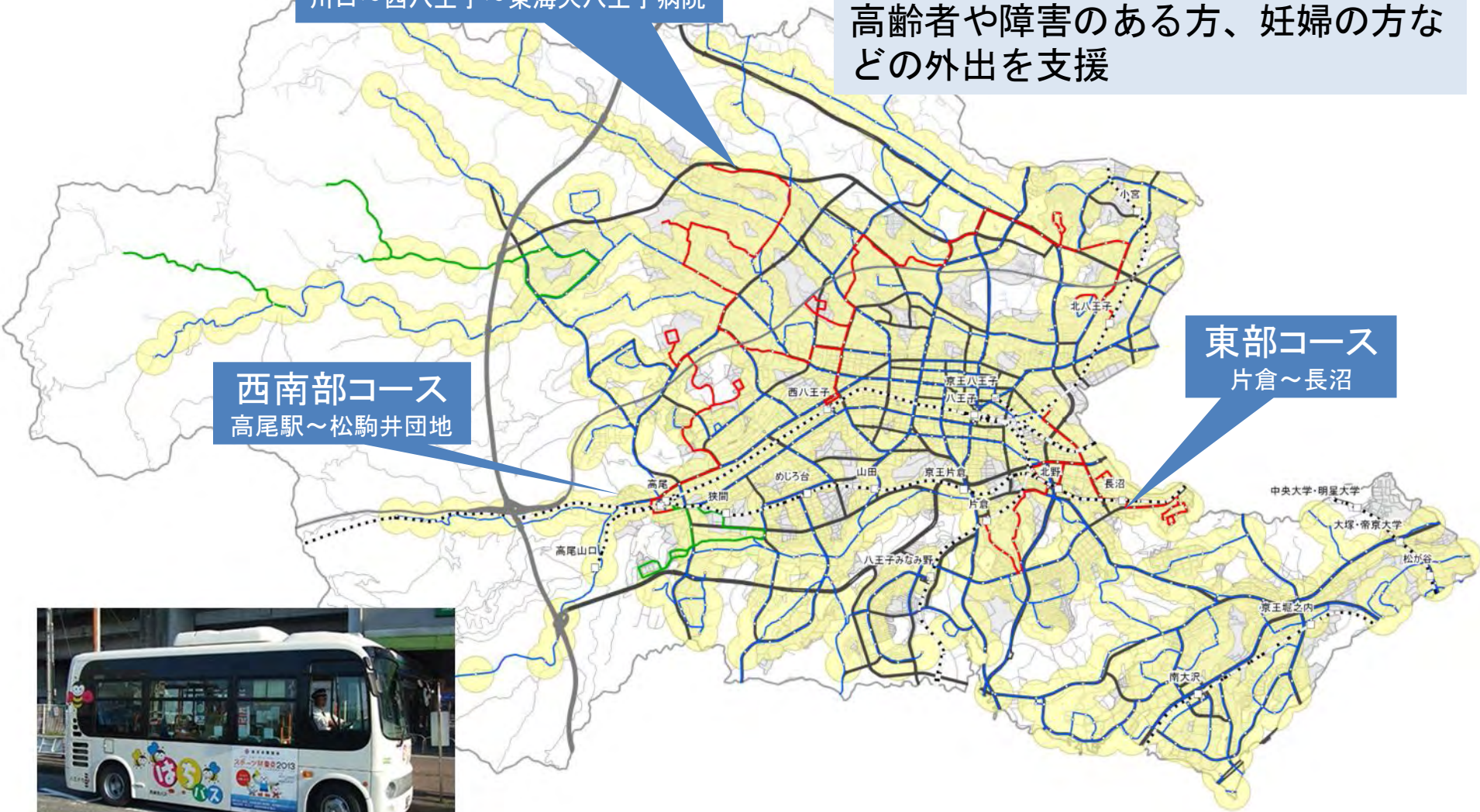
## 【地域循環バス はちバス】

市内の交通空白地域を中心に、主に高齢者や障害のある方、妊婦の方などの外出を支援

北西部コース  
川口～西八王子～東海大八王子病院

西南部コース  
高尾駅～松駒井団地

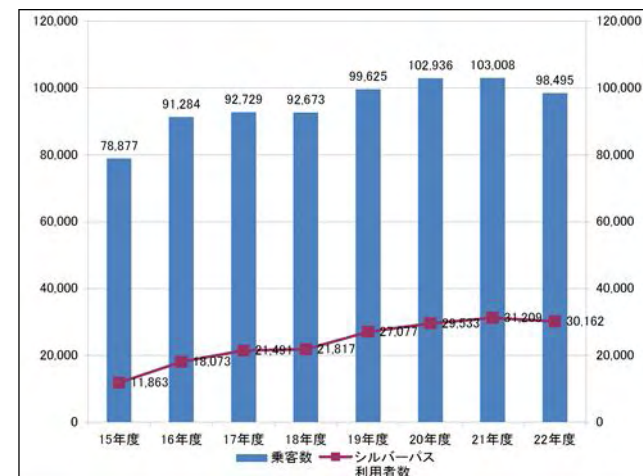
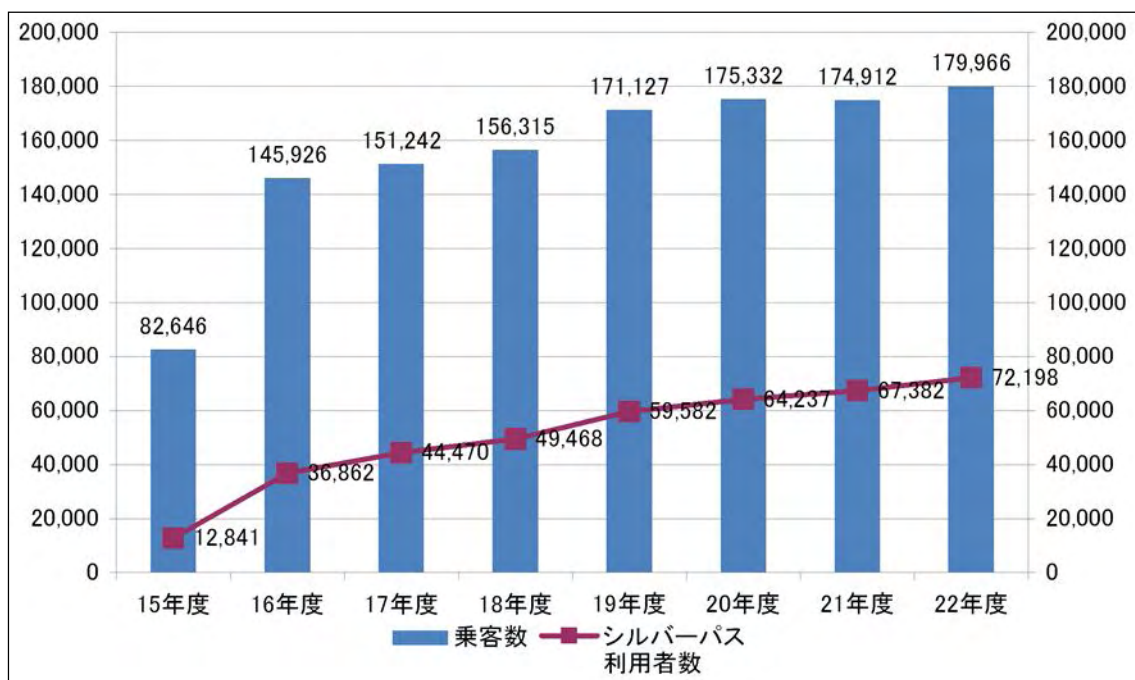
東部コース  
片倉～長沼



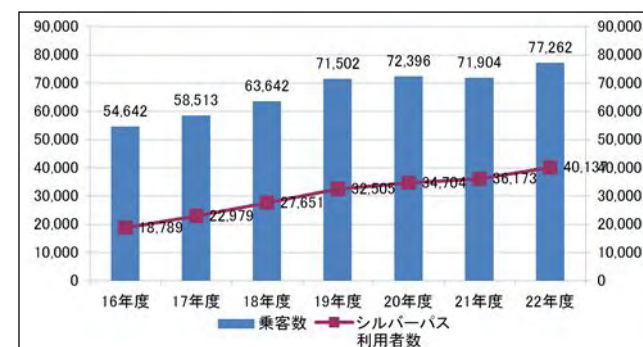
## ●はちバス

市では、公共交通空白地域の中で優先度を評価した上で、複数の交通空白地域がまたがる地域で「はちバス」を運行

- ・平成15年3月から「北西部コース」
- ・平成16年3月から「東部コース」、
- ・平成23年1月から「西南部コース」



・はちバスに対する認知度が上昇し、利用者数は年々増加傾向にある。



# 主な成果

# 地域交通

小津地区(約4.5km)  
⇒貸切マイクロバス



醍醐降宿地区(約4.0km)  
⇒貸切タクシー



地域住民との協働による公共交通の確保のため、現在山間地域など3地区で試行運行を実施中



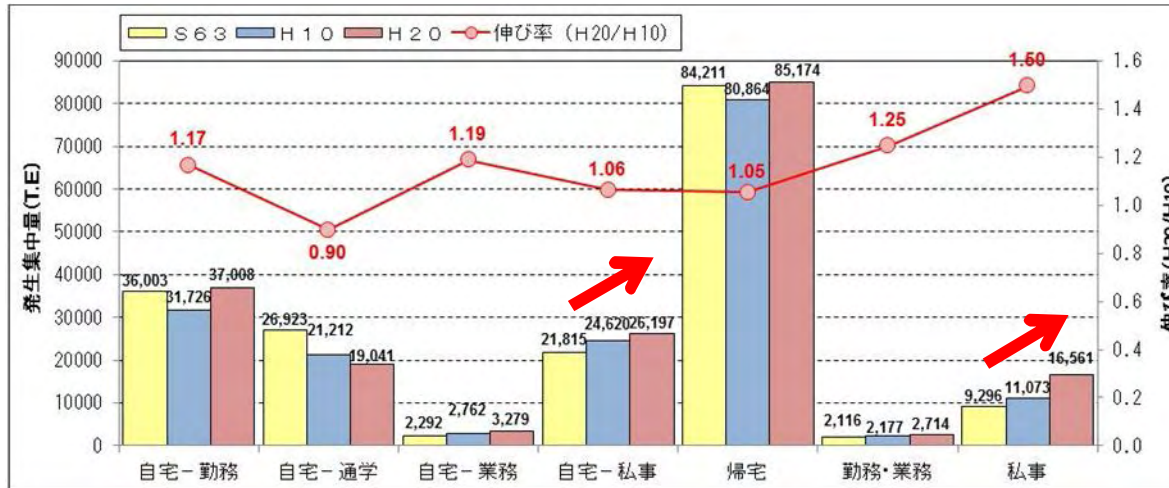
■ 地域交通事業(交通空白地域交通事業)

・バス・タクシー等で交通空白地域と近隣の鉄道駅又は路線バスの乗継拠点等を結ぶ交通機関を運営する事業 (事業運営補助金交付要綱による)

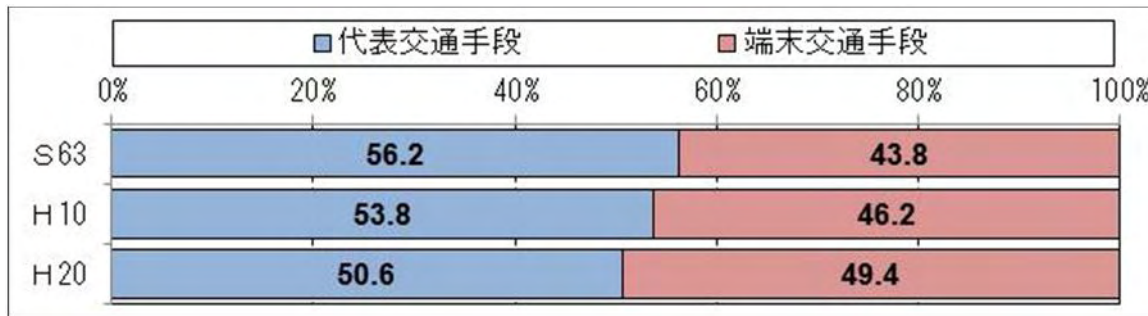
	小津町地区	醍醐・降宿地区
目的	主に自家用車を持たない高齢者や通学児童等の移動手段の確保	主に車を持たない高齢者の移動手段の確保
契約	事業者(小津町地域バス等運営委員会)が西東京バス(株)と貸切契約	事業者(降宿醍醐地域乗合タクシー運営委員会)が八王子市タクシー合同運営委員会と貸切契約
路線	小津町(全域) ～上野原経由～恩方車庫	上恩方町3220番地先 ～夕焼小焼バス停
使用車両	ワンボックスタイプ (トヨタハイエースコンピューター)	一般乗用タクシー(大型)
運行計画	平日 1日6往復(平成23年度～) ※H19.10～H22.3は1日5往復	月、金(平成23年度は年間96日) 1日1往復
備考	バス事業者が利用者減少による採算性の悪化を理由に小津町路線の廃止  (住民:81世帯、約270名)	元来公共交通がない地域のため、日常生活は自家用車又は徒歩(最寄のバス停まで約2.5km)による移動が、高齢化により困難化  (住民:25世帯)

# どのように変わったか？

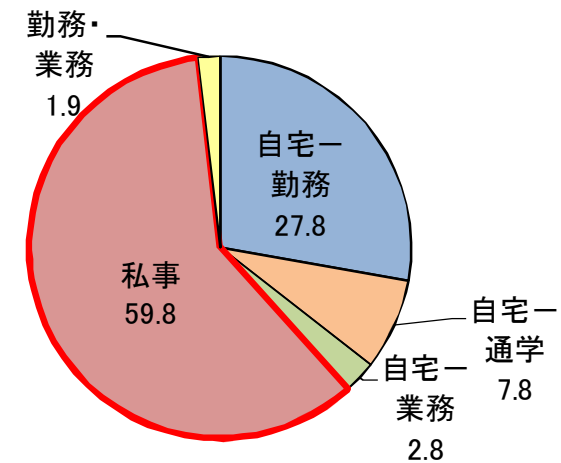
## 路線バス発生集中量の変化(東京都市圏PT調査)



## 代表・端末との比率の変化(路線バス)

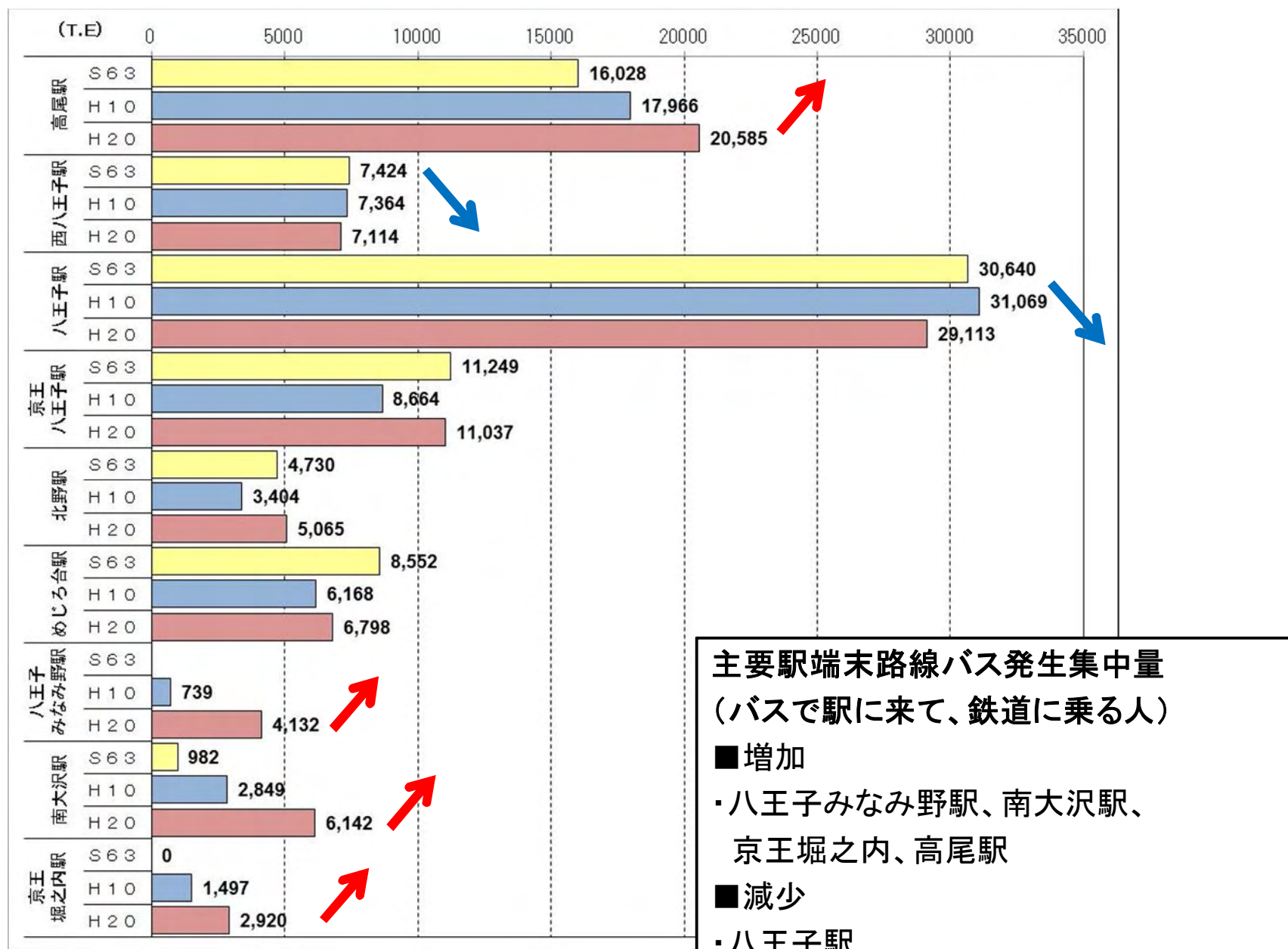


## 代表・目的構成比(H20)



- ・路線バスは全体的には増加(人口の伸び以上に増加)
- ・バスのみ(代表)⇒バス+鉄道(端末)に変化
- ・バス利用のみは、6割が私事
- ・東部、東南部での端末利用が増加

# 主要駅端末路線バス発生集中量の変化(東京都市圏PT調査)



※1,000TE以上

# 端末OD増減量 (H10/S63)

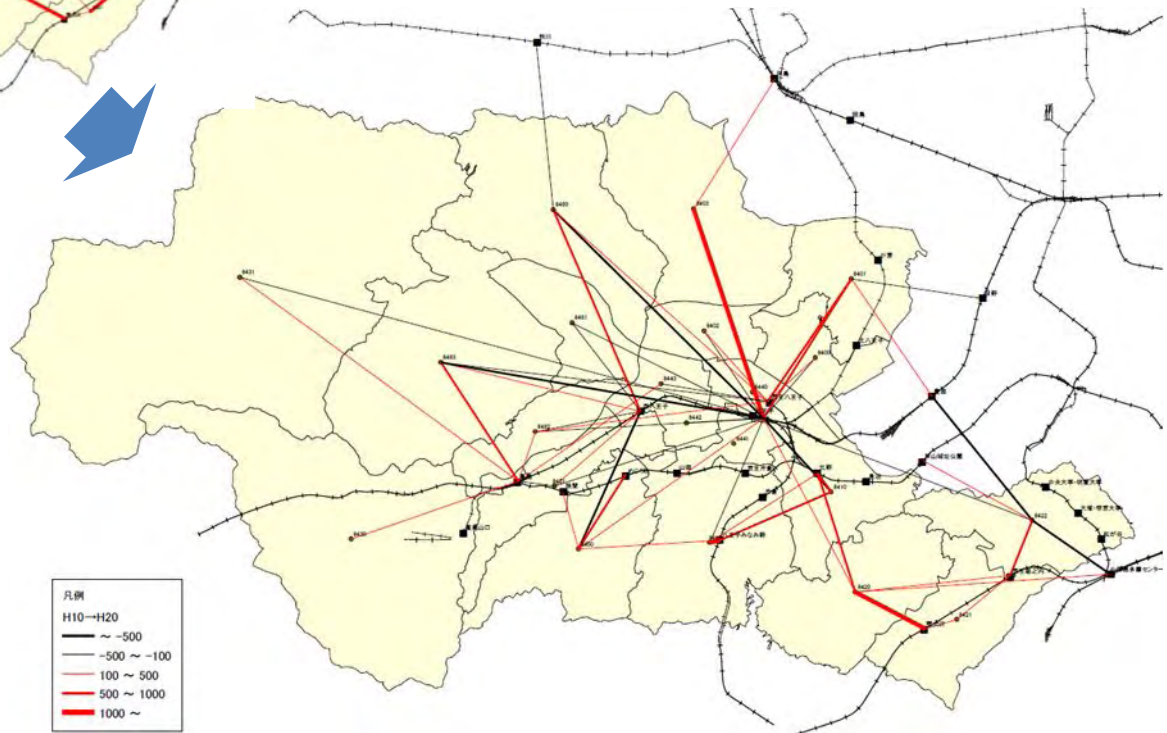
(東京都市圏PT調査)



- 増加傾向(赤)
- ・八王子駅～四谷周辺、北西部
- ・西八王子～四谷周辺、西南部
- ・北部～日野
- ・南大沢周辺～周辺部

(H20/H10)

- 増加傾向(赤)
- ・八王子駅周辺～北部
- ・南大沢～北野
  
- 減少傾向(黒)
- ・八王子駅周辺～四谷周辺



## ●公共交通空白地域の現状・評価

- ・はちバス導入により公共交通カバー圏域が約6%解消済
- ・今後は公共交通空白地域の拡大が懸念(高齢化率の範囲の拡大)

■公共交通空白地域の解消度

	公共交通カバー圏域	
	人口	面積
はちバス導入前(鉄道・路線バスのみ)	約 452,000 人	約 91.50 km <sup>2</sup>
はちバス導入後(鉄道・路線バス+はちバス)	約 481,000 人	約 96.70 km <sup>2</sup>
解消度	+約 29,000 人 (約 6.0%UP)	+約 5.20 km <sup>2</sup>

